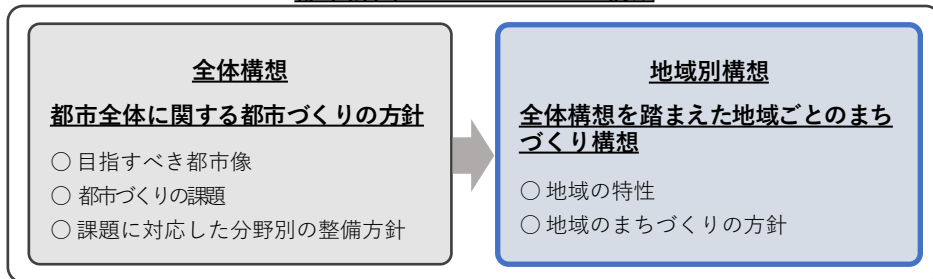




## 1 都市計画マスタープランとは

- 都市計画とは、将来も安全で、住みやすく、働きやすい都市を実現するために、**土地の使い方や建物の建て方のルール、道路や公園の計画など、都市の将来像を計画するものです。**
- 都市計画マスタープランとは、おおむね20年後の都市の姿を見据えて、住民の皆様のご意見を反映しながら、市町村が策定する**都市計画の基礎となる将来ビジョン**です。
- まちづくりに関する各種計画の策定や都市計画の決定などは、**マスタープランに基づいて行われます。**
- マスタープランは、市全体に関する都市づくりの方針を定めた「**全体構想**」と、地域ごとのまちづくりの方向性を描いた「**地域別構想**」から構成されます。

### 都市計画マスタープランの構成



改定専門部会※にて検討中

検討の前段階で地域別懇談会を開催

※長野市都市計画審議会の附属組織であり、計画改定に向けて検討する、学識経験者、民間団体代表者等で構成される部会

## 2 地域別懇談会の目的・内容

### 目的

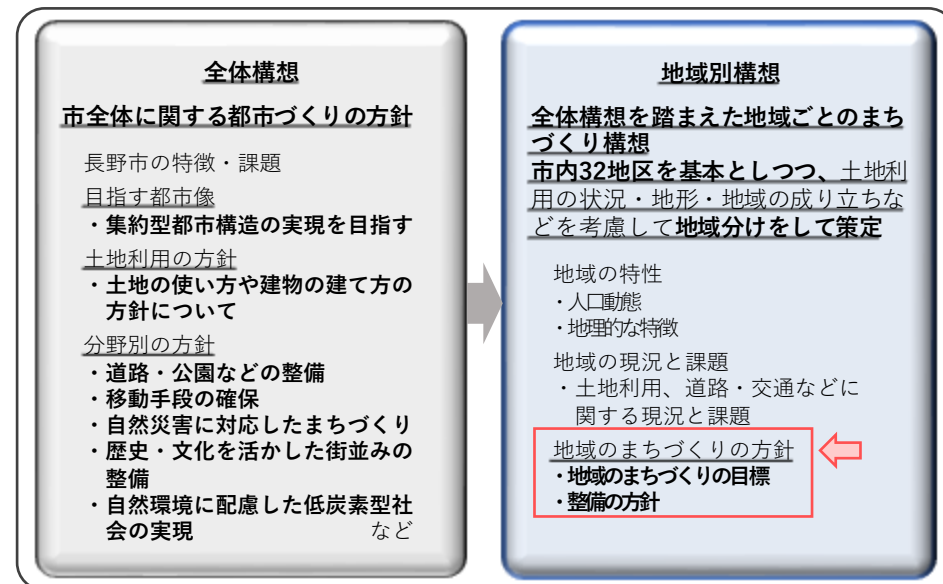
- この懇談会は、この度改定する長野市都市計画マスタープランの中の「**地域別構想**」を検討する前段階で、**住民自治協議会の皆様と意見交換させていただくもの**です。
- 地域の実情や、日頃、感じていらっしゃることにについて教えていただき、計画の改定に活用させていただきます。

### 意見交換させていただきたい内容

- 約10年前に改定した**現行の長野市都市計画マスタープランの地域別構想(本資料のシート4)**と**現在の地域の状況を比較して、変化したこと**について
- 次期長野市都市計画マスタープランの地域別構想に位置付けたいことについて
- 地区で力を入れているまちづくり活動や計画があれば、教えてください

## 3 長野市都市計画マスタープラン改定に向けて

### 長野市都市計画マスタープランの内容



### 改定の背景・目的

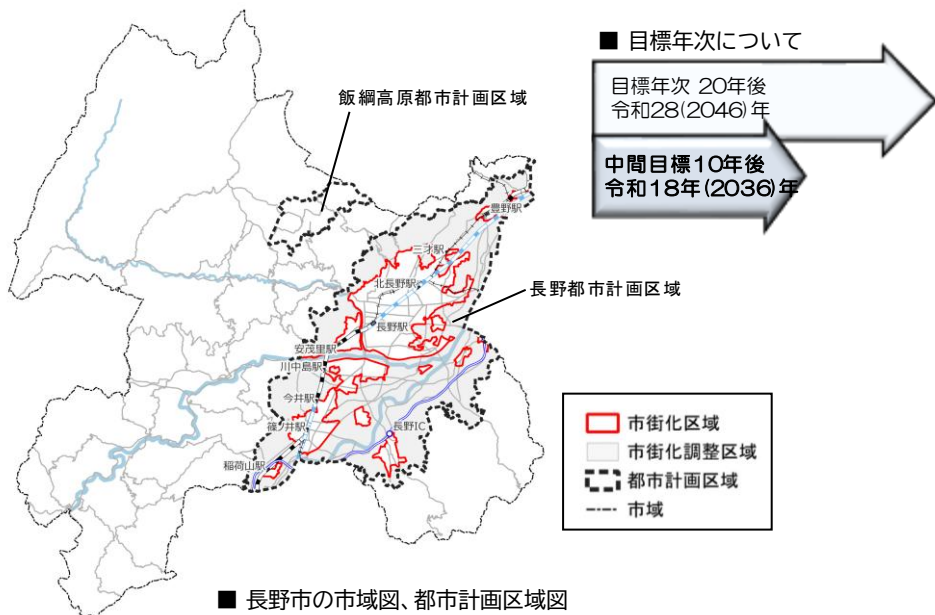
- 平成29年の改定から10年が経過し、**中間目標年次を迎えること、「長野市総合計画」が令和9年4月に改定されることから、本マスタープランを改定します。**
- 前回の改定以降、長野市の都市づくりを巡る状況は、**人口減少と少子高齢化が本格的に進行しており、移動手段の確保や暮らしに必要な施設の立地などが将来的に困難になることが懸念されています。**
- 将来においても持続可能な長野市を実現する必要があることから、**本マスタープランを指針として、まちづくりを進めていきます。**

### 改定のスケジュール(都市計画マスタープラン・立地適正化計画)

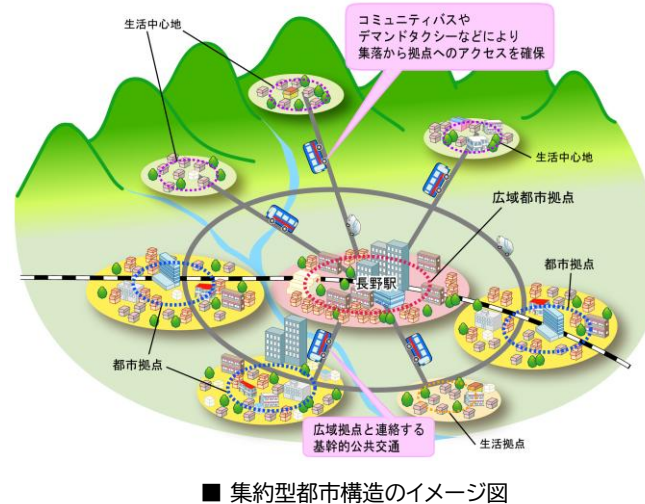
年度	R7	R8										R9					
月	12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
地域	地域別懇談会(全32地区)										パブリックコメント 地域別意見収集(全32地区)						
改定専門部会	計画改定に向けた検討(R7.3月~)										素案					公開	

## 計画範囲と目標年次

- 都市計画区域を基本としつつ、都市部と中山間地域が近接する、本市の特徴を踏まえて、**長野市全体を計画範囲**とします。



## 目指す都市構造のイメージ



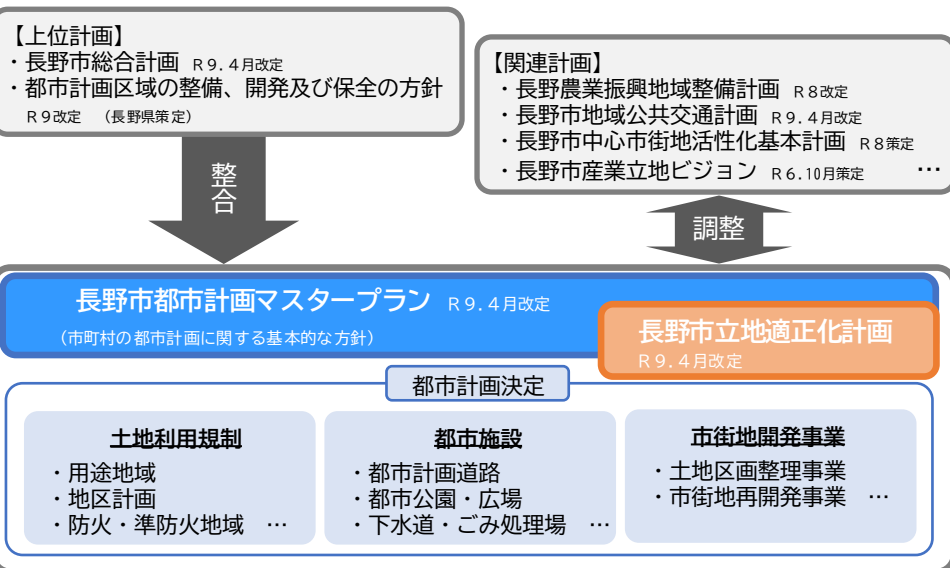
### ○集約型都市構造とは

- 買い物、医療、子育て、福祉などの暮らしに必要な機能を、鉄道駅の周辺や地域の拠点などに集約するとともに、交通によるアクセスを確保する都市の作り方です。

### ○集約型都市構造を目指す理由

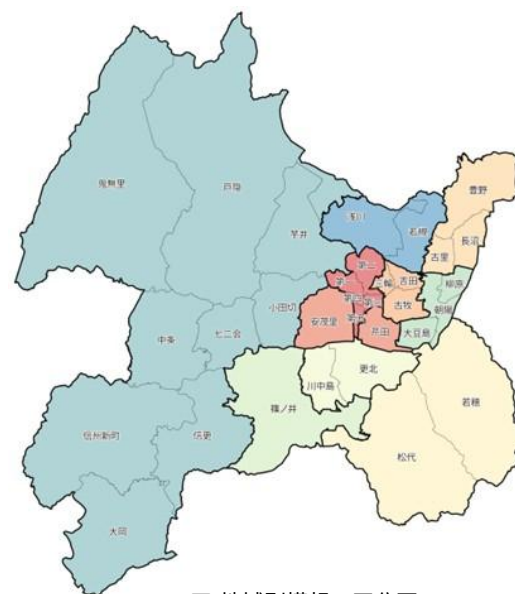
- 人口減少が進行する中で、今のままでは公共サービスや買い物をする店などの生活に欠かせない施設を維持することが難しくなるためです。
- 集約型都市構造を実現することで、身近な生活圏の中に、暮らしに必要な機能が確保され、将来においても快適に暮らし続けられる地域コミュニティを持続させられるためです。

## 計画の位置づけ



## 地域別構想の区分

- 次期都市計画マスタープランの地域別構想では、市内32地区を、地形や土地利用の状況を踏まえ、10地域に区分して記載します。



地域別構想の区分	32地区			
長野駅・善光寺周辺地域	第一	第二	第三	第四
	第五			
芹田・安茂里地域	芹田	安茂里		
東部地域	古牧	三輪	吉田	
北部地域	古里	長沼	豊野	
浅川・若穂地域	浅川の一部	若穂		
千曲川沿川地域	柳原	大豆島	朝陽	
川中島・更北地域	川中島	更北		
篠ノ井地域	篠ノ井			
松代・若穂地域	松代	若穂		
北西部中山間地域	浅川の一部	小田切	芋井	七二会
	信更	戸隠	鬼無里	大岡
	信州新町	中条		

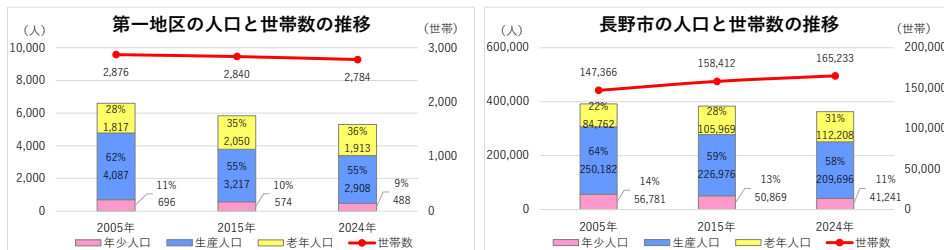
■ 地域別構想の区分図



### 4 第一地区の概況について

#### 人口動態

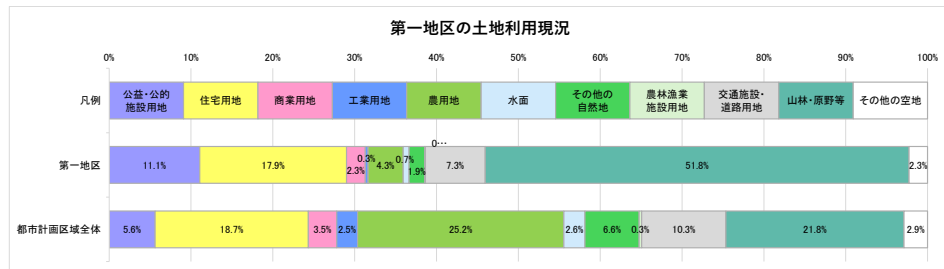
- 第一地区では、2005年から人口・世帯数ともに減少傾向にあります。1世帯当たりの平均人員は2.3人(2005年)、2.1人(2015年)、1.9人(2024年)となっており、2024年には2人/世帯を下回っています。
- 高齢化率※は28%(2005年)から36%(2024年)に増加しており、2024年時点の高齢化率は市平均(31%)よりも高くなっています。なお、2015年と比較すると、高齢化率の進展は緩やかになっています。  
※65歳以上の高齢者人口(老年人口)が総人口に占める割合



出典：住民基本台帳による長野市町別人口及び世帯数より作成

#### 土地利用現況

- 第一地区では、52%が山林・原野、18%が住宅用地として利用されています。



出典：長野市都市計画基礎調査より作成

#### 施設立地状況

- 第一地区内に立地する主な生活利便施設等の数は以下のとおりです。

	生活利便施設						
	高齢者・障がい者等福祉施設	子育て支援施設	医療機関	学校	金融機関	郵便局	公的集会所
第一地区	2	4	12	3	1	3	1
長野市計	38	108	202	549	113	113	100

	生活利便施設		地域交流施設				
	大型小売店(食料品取扱等)	大型小売店(専門店等)	スーパー・飲食店等	コンビニ	国・都道府県機関等	文化施設	集客施設
第一地区	1	56	4	18	8		
長野市計	68	59	3883	188	145	913	68

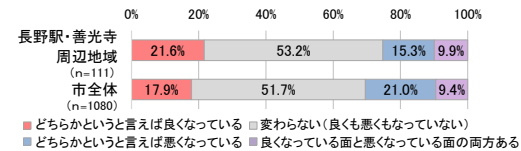
出典：長野市行政地図情報、長野市都市計画基礎調査、大型小売店総覧2025、NAVITIME(令和7年6月時点)より作成

### アンケート調査結果

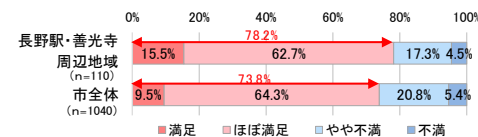
長野駅・善光寺周辺地域(第一、第二、第三、第四、第五)

- 本アンケートは、長野市都市計画マスタープランの改定に活用するため、令和7年7月14日から28日までの約2週間、無作為に抽出した18歳以上の長野市民3,000名を対象に実施しました。
- 合計1,110名(回答率:37.0%)からご回答をいただきました。第一地区を含む長野駅・善光寺周辺地域の回答者は117名でした。

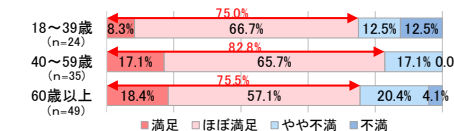
#### 1) 暮らしやすさの変化(10年前との比較)



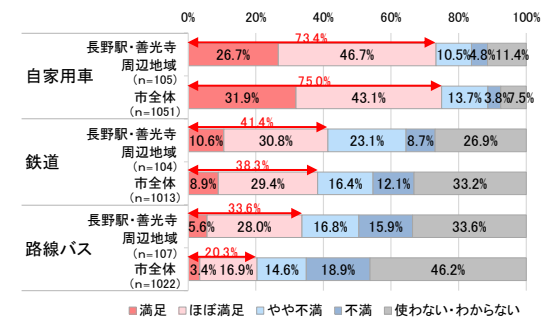
#### 2) 暮らしやすさの満足度(総合的な評価)



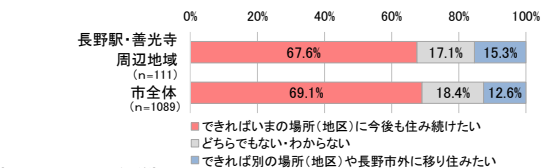
#### 〈参考〉本地域の年代別の満足度



#### 4) 交通環境の満足度(交通手段別の評価)

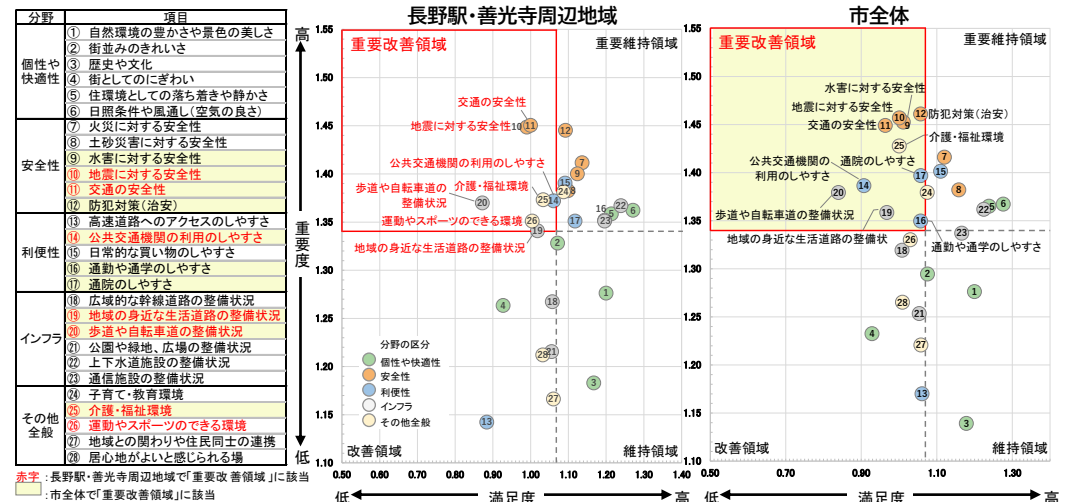


#### 5) 今後の居住意向



#### 3) 暮らしに関する項目別の満足度と重要度(28項目の評価※)

※項目ごとに満足度と重要度それぞれ5段階評価の結果を点数化し、市全体の結果の平均点を基準線(点線)にして、4つの領域に区分。左上の「重要改善領域」に該当する項目が、相対的に満足度が低く、重要度の高い項目で、必要性の高い取組として捉えられます。



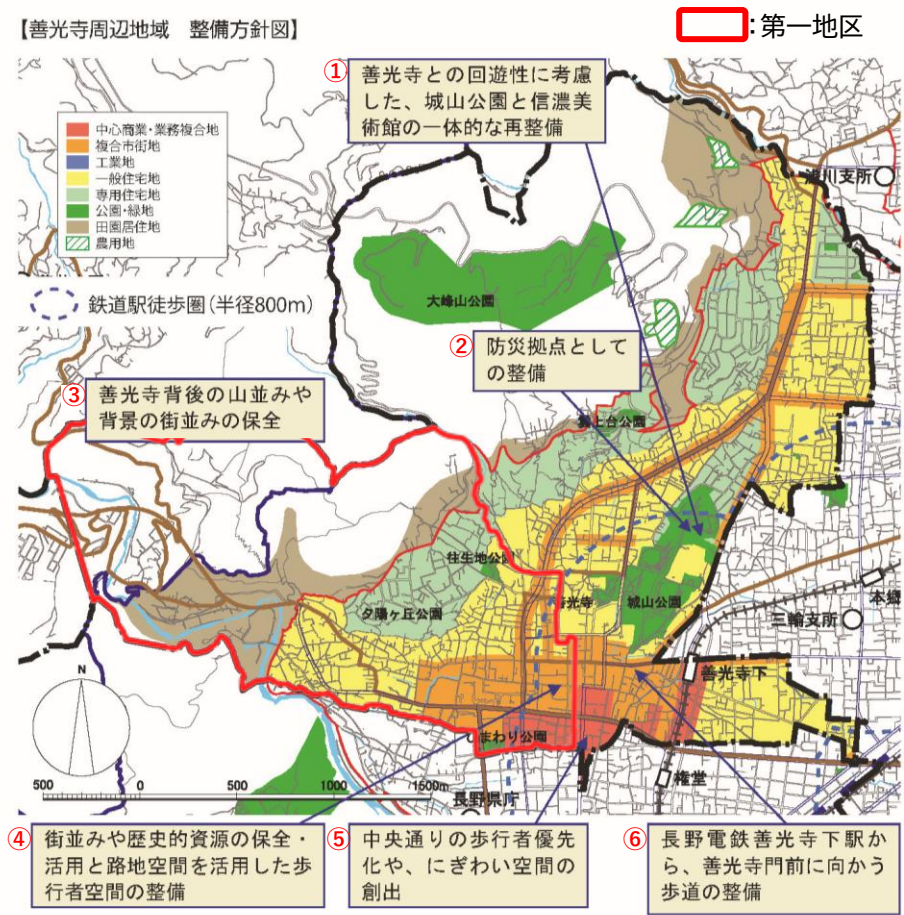
赤字：長野駅・善光寺周辺地域で「重要改善領域」に該当  
黄色：市全体で「重要改善領域」に該当

5 現行都市計画マスタープラン(平成29年改定) 地域別構想について

地域の街づくりの目標と整備の方針(善光寺周辺地域)

地域の街づくりの目標	善光寺に代表される歴史的、文化的資産を大切に、その周辺の施設や環境を活かした、歴史が感じられる街並みの形成を目指す。
整備の方針	
拠点の形成・都市機能形成方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>善光寺の門前町として発展してきた地域の特性を活かし、歴史を伝える建物の保存や文化の継承とともに、歴史が感じられるまちづくりを進め、参拝者や観光客など多くの人が訪れ交流する拠点の形成を図る。</li> <li>城山公園一帯では、都市の貴重な緑地空間の保全を図るとともに、文化・芸術の拠点性を高め、広域的な文化・芸術・レクリエーション・防災等の機能が一体となった地域形成を進める。</li> <li>立地適正化計画による都市機能誘導区域を定め、広域拠点にふさわしい都市機能の維持、集積を促進する。</li> </ul>
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>善光寺周辺の歴史的風致や都市の貴重な緑地空間に配慮し、戸建て住宅を中心に良好な景観や住環境向上のため、善光寺・城山らしい街並みづくりについて、風致地区*制度等を活用して、きめ細かな街づくりを推進する。</li> <li>市街地の背景となる山すその丘陵地では、緑豊かで静かな住環境を維持するとともに、災害に強い住宅地づくりを図る。</li> <li>空き家などを活用したリノベーション*まちづくりの推進や、公的不動産の活用による都市機能の誘導により拠点性を高める。</li> </ul>
道路・交通整備方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>善光寺を訪れる観光客が散策したくなるような回遊性の高い歩行者空間の形成を図る。</li> <li>観光地としての利便性の向上を図るとともに、地域の生活を支える公共交通網の整備と、善光寺周辺の歩行者道や自転車道のネットワーク化を推進する。</li> <li>善光寺周辺の住宅地では、安全性や快適性を確保するため、生活道路の整備を推進する。</li> <li>歴史的景観に配慮し、集約化した利便性の高い駐車場の整備を官民協働で図る。</li> </ul>
自然環境・都市環境・景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>善光寺一帯に残された歴史的街並みや、寺社、建築物、水路、路地等の資源を保存し、周辺の修景も含めた街並みの整備を図るとともに、路地空間等を活かした歩行者空間の整備を推進する。</li> <li>善光寺背後の街並みや山並みを保全し、善光寺の背景となる景観の保全を図る。</li> <li>城山公園一帯の自然環境を活かすとともに、文化・芸術・レクリエーションの機能を高める施設の再整備を図る。</li> <li>水路や路地空間を活かし、歩きたくなるような歩行者空間の整備を図る。</li> </ul>
防災都市づくり方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>木造の建築物が密集する地区では、不燃化や耐震化を進めるとともに、避難路としての道路などの都市基盤の整備を推進する。</li> <li>災害に強い地域づくりを進め、広域避難場所としての城山公園の防災機能強化を図る。</li> </ul>

【善光寺周辺地域 整備方針図】



⑦ 地域共通の事項

- 善光寺一帯に残された歴史的街並みや歴史的資源の保全・活用
- 景観に配慮した低層の都市型住宅地の整備
- 住宅地での安全性や快適性に配慮した生活道路の整備
- きめ細やかな街づくりの推進(風致地区制度、街なみ環境整備事業\*による住民協定、伝統的建造物群保存地区\*の検討)
- 木造の建築物が密集する地区での不燃化や耐震化、道路などの都市基盤の整備
- 水路や路地空間を活かした歩行者空間の整備

※図中の丸番号は5ページ下段と対応しています。



6 平成28年開催 地域別懇談会（第一地区）の意見等一覧

質問・意見等	市の考え方（平成28年時点）	分類	現行計画への活用
平成19年に改定された計画の地域別構想の「地域の街づくりの目標」に「善光寺～」という記載があるが、地域住民の日々の生活と善光寺は関係がない。善光寺中心に書かれているが、コンパクトシティの根本には住民の生活があり、住民のためのものだと思う。	「地域の街づくりの目標」の記載について、地域の皆さまの理解しやすいものになりたいと考えています。	拠点の形成	検討
中心市街地の話はよく出るが、中心市街地と言われるのは善光寺から長野駅までは商業が中心の地域であり、周辺の住民にはあまり関係がない。	まちづくりは、中心市街地だけでなく、隣接地域や周辺地域との連携が重要と考えており、地域の特性を活かした構想にしたいと考えています。	拠点の形成	参考
この場で意見を聞いたり、意見用紙で意見を求めているが、出した意見に対して回答はもらえるのか。	意見に対する市の考え方を含め、素案を公表し、パブリックコメント等で意見を聴取する予定です。	その他	その他
人口減少には就職先がないことが問題だと思う。企業誘致も平行してやっていくべきではないか。	定住人口、交流人口増加のために、重要なことであると考えており、関係部局の計画や意見等を踏まえ、実現化方策について検討します。	土地利用	参考
具体的な施策がなければ絵に描いた餅になってしまうと思う。	施策の提案等を含め、実現化方策について掲載予定です。	その他	反映
第一地区から第五地区をまとめて長野中央区と呼んでいるのか。（以前、市職員が会議で使っていた）		その他	その他

7 現行都市計画都市計画マスタープラン 整備方針図の実施状況

番号	整備方針	実施状況
①	善光寺との回遊性に考慮した、城山公園と信濃美術館の一体的な再整備	実施中
②	防災拠点としての整備	実施中
③	善光寺背後の山並みや背景の街並みの保全	実施中
④	街並みや歴史的資源の保全・活用と路地空間を活用した歩行者空間の整備	実施中
⑤	中央通りの歩行者優先化や、にぎわい空間の創出	実施中
⑥	長野電鉄善光寺下駅から、善光寺門前に向かう歩道の整備	実施中
⑦	地域共通の事項 ・善光寺一帯に残された歴史的街並みや歴史的資源の保全・活用 ・景観に配慮した低層の都市型住宅地の整備 ・住宅地での安全性や快適性に配慮した生活道路の整備 ・きめ細やかな街づくりの推進（風致地区制度、街なみ環境整備事業による住民協定、伝統的建造物群保存地区の検討） ・木造の建築物が密集する地区での不燃化や耐震化、道路などの都市基盤の整備 ・水路や路地空間を活かした歩行者空間の整備	実施中 （一部、継続検討中）

※図中の丸番号は4ページの整備方針図と対応しています。

■地域共通の特徴

【土地利用】

商業地において住宅のみの建設やコインパーキング化、小規模分譲が進行している。これにより商業・業務機能が縮小し、土地利用の混在・細分化が進んでいる。その結果、都市機能の配置が整理されておらず、緑地不足や空き家増加による景観悪化、防災・防犯性の低下など、住環境の質の低下が顕在化している。

【交通】

交通面では、幹線道路の渋滞や通過交通の住宅地流入、バス減便等により、安全性・移動利便性が低下している。

【防災】

内水氾濫や避難所不足など、都市型災害への対応力にも課題がある。

【総合的課題】

歴史資源の活用不足や商業・生活機能の弱体化、インバウンド受入や民間連携の遅れもみられる。これらの課題に対し、計画的な土地利用誘導と都市機能の再編を図り、交通・生活・防災・観光を一体的に強化するまちづくりが求められている。

■10地域ごとの特徴

〈長野駅・善光寺周辺地域〉

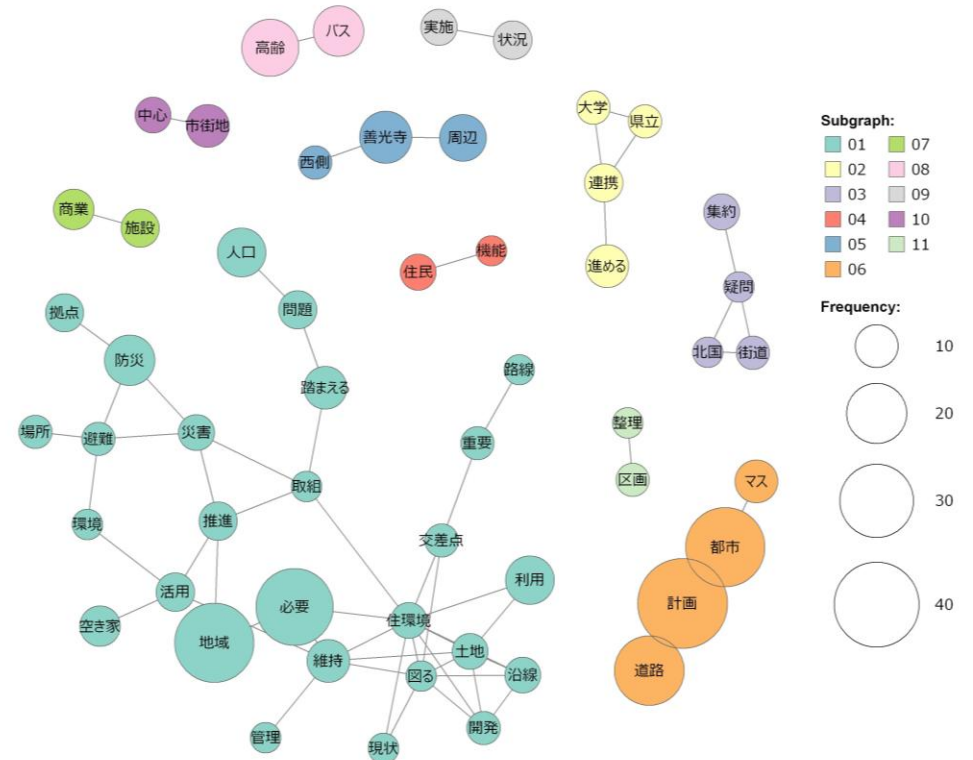
駅前・表参道に投資が集中する一方で、西側の商業衰退や高齢者の孤立が進んでいる。また、空き地の増加や住宅化による景観悪化、駐車場不足、渋滞・バス停分散による回遊性の低下が生じている。これらの課題に対し、交通再編やインバウンド活用を含む実効性あるまちづくりが求められている。

〈芹田・安茂里地域〉

芹田地域と安茂里地域は地域特性の差が大きいにもかかわらず、計画上一体的に扱われているため、課題把握が不十分となっている。その結果、交通基盤の未整備や商業空洞化が進んでいる。都市整備の進捗が不透明ななかで、地域交通や生活支援の強化が求められている。

〈東部地域〉

周辺の拠点に挟まれた立地にあり、地域としての方針が不明確。高齢化・空き家の増加、道路未整備による安全性の低下、交通利便性の低下、水害リスクなどの課題を背景に、地域方針の明確化と交通・防災機能の強化が求められている。



市街地地域の意見のキーワード分析

※上図はテキストマイニング(文章中の単語の出現頻度や関係性を分析する手法)により、出された意見の特徴を可視化したものです。単語同士をつなぐ線は関連性があることを示し、円が大きいほど出現頻度が高いことを示しています。

# 市街地周辺地域

北部地域 (豊野 長沼 古里) 川中島・更北地域 (川中島 更北) 松代・若穂地域 (松代 若穂)  
 千曲川沿川地域 (柳原 朝陽 大豆島) 篠ノ井地域 (篠ノ井) 若槻・浅川地域 (若槻 浅川)

## ■地域共通の特徴

### 【土地利用】

農振地域や市街化調整区域の規制により、土地利用転換や拠点形成が進んでいない。その結果、耕作放棄地や空き家の増加、低未利用地の長期化が生じており、地域の活力低下や人口減少が進行している。

### 【交通】

交通面では、幹線道路の慢性的な渋滞や通過交通の生活道路への流入、バス減便やタクシー減少等により、高齢者を中心に通院・買い物など日常移動の制約や安全性の低下が生じている。

### 【生活機能】

大型店舗撤退や商店街の空洞化により商業機能が低下するとともに、高齢者支援や地域拠点機能も不足し、生活利便性の維持が困難となっている。

### 【産業・総合的課題】

農業の担い手不足や農地集約の遅れ、観光資源の活用不足や回遊性の弱さにより、地域産業の活性化が進んでいない。これらの課題に対し、土地利用規制の見直しと拠点形成を進め、都市・農村機能の再編を図るとともに、交通・生活・防災・観光を一体的に強化するまちづくりが求められている。

## ■10地域ごとの特徴

### 〈北部地域〉

高齢化や被災を背景に商業衰退と生活不安が進行している。また、土地利用規制が実態に即していない状況や治水の遅れも重なっており、交通維持と実効性ある計画運用が求められている。

### 〈千曲川沿川地域〉

土地利用規制が柔軟に運用されていない。また、道路整備の遅れによる渋滞・安全性の低下、交通利便性の低下、防災不安が重なっており、拠点形成と交通強化が求められている。

### 〈川中島・更北地域〉

土地利用規制の柔軟性不足、渋滞・水害リスクの高まり、生活支援需要の増加などの課題がある。これらに対し、地域像の明確化と都市・農村の共生方針の整理が求められている。

### 〈篠ノ井地域〉

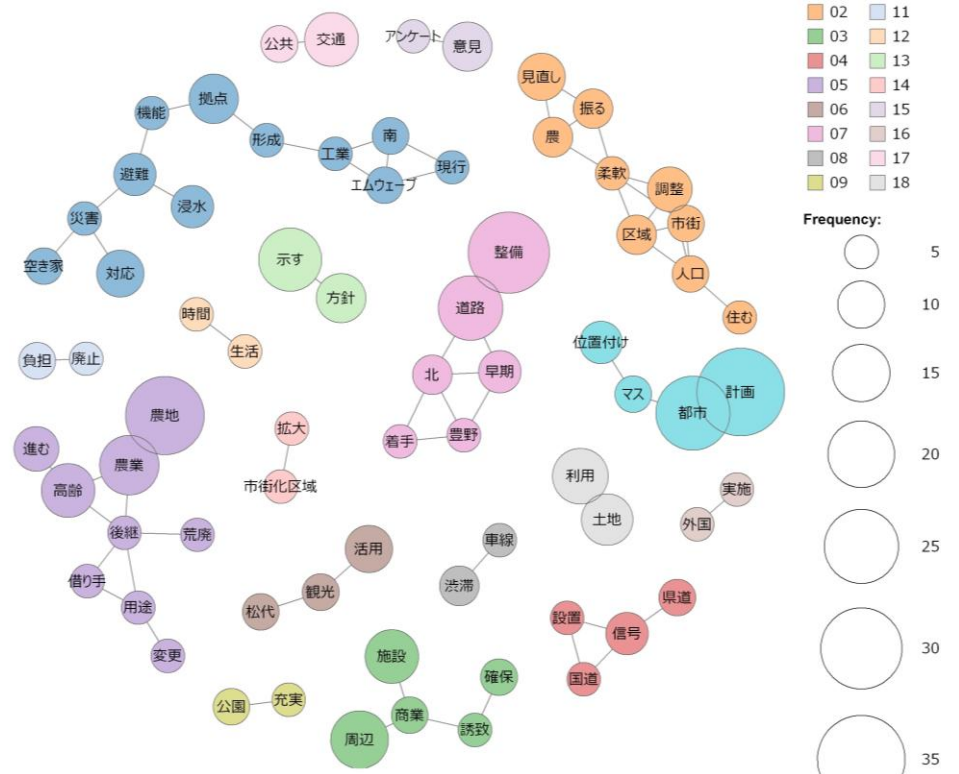
拠点集約方針と山間部の実情に乖離が生じている。また、土地利用制約による空き家・農地荒廃、交通利便性の低下、インフラ老朽化が重なっており、実態に即した計画見直しと進捗の明確化が求められている。

### 〈松代・若穂地域〉

土地利用規制により宅地化が進まず、人口減少が懸念されている。また、道路整備の遅れや交通縮小による利便性の低下、防災不安、観光・産業の弱さが重なっており、拠点形成と活性化の方向性が求められている。

### 〈若槻・浅川地域〉

中山間地としての役割や拠点の位置づけが不明確。また、交通基盤の弱さや資源活用の停滞が見られ、具体的な方針と進捗の可視化が求められている。



市街地周辺地域の意見のキーワード分析

※上図はテキストマイニング(文章中の単語の出現頻度や関係性を分析する手法)により、出された意見の特徴を可視化したものです。単語同士をつなぐ線は関連性があることを示し、円が大きいほど出現頻度が高いことを示しています。

■地域共通の特徴

【都市構造・生活機能】

現在の都市構造は市街地への一方向集約を前提としており、集落間の往来や生活実態と乖離している。各集落では買い物・医療・交通などの生活機能や小規模拠点の不足している。その結果、日常生活の維持や定住継続が困難となっている。

【交通】

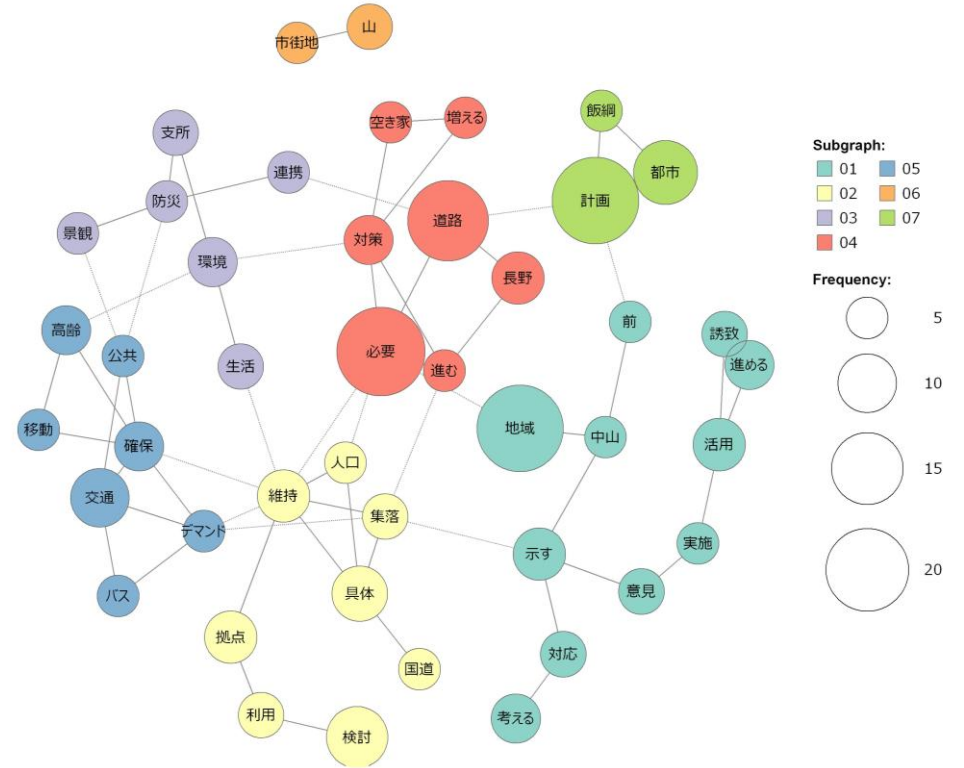
道路面では、狭隘道路や急カーブ、維持管理の遅れにより、通行や緊急対応に支障がある。また、バス減便やデマンド交通の利便性不足により、高齢者の移動制約が大きくなっている。

【土地利用・産業・防災】

空き家増加に伴う獣害や環境悪化、農林業の担い手不足による遊休農地の拡大、観光資源の活用不足が重なり、地域の維持機能が低下している。また、防災拠点の不足や分散地域に対応した連携体制にも課題がある。

【総合的課題】

これらの課題に対し、実態に即した小さな拠点の再編と生活機能の確保を図り、交通・産業・防災を一体的に維持強化するまちづくりが求められている。



中山間地域の意見のキーワード分析

※上図はテキストマイニング(文章中の単語の出現頻度や関係性を分析する手法)により、出された意見の特徴を可視化したものです。単語同士をつなぐ線は関連性があることを示し、円が大きいほど出現頻度が高いことを示しています。

## 〈参考〉分類ごとの主な意見（3地域の比較）

### 都市構造・土地利用

#### 市街地地域

- ・商業地域において住宅のみの新規建設やコインパーキングの増加により用途混在が進行し、計画的な土地利用が図られず都市機能の配置に課題が生じている。
- ・小規模分譲地の増加や敷地の細分化によりオープンスペースや公園の確保が困難となり、緑地の不足や居住環境の質の低下が懸念される。
- ・主要幹線沿線において開発圧力が高まる一方で土地利用の誘導が不十分であり、無秩序な開発による住環境の悪化が懸念される。
- ・高齢化や世帯分離の進行に伴い空き家が増加し、草木の繁茂や害獣被害、建物の老朽化、防災・防犯性の低下、景観悪化などの課題が顕在化している。
- ・高齢化の進行によりごみ出しや除雪が困難な世帯が増加し、市営住宅における高齢者対応の限界も生じるなかで、生活支援拠点の整備など支援体制の構築が不十分である。
- ・大型店舗の立地や既存商業の衰退、再開発の停滞により、住宅供給と商業機能の一体的整備が進まず、旧市街地における日常の買い物機能が低下している。
- ・公民館等の老朽化や改修の遅れ、バリアフリー未対応に加え、駐車場不足等により、住民が集える身近な拠点機能が低下している。

#### 市街地周辺地域

- ・高齢化や後継者不足により耕作放棄地が増加する一方で、農振地域や市街化調整区域の規制により土地活用が制限され、空き地化の進行と人口減少が進展している。
- ・農地の残存や用途規制の制約により土地利用転換が進まず、産業立地や企業誘致のニーズに十分対応できていない。
- ・低未利用地の長期化や都市機能の集約不足により拠点形成が進まず、開発の具体化が遅延し地域の活力低下につながっている。
- ・所有者不明の空き家や市営住宅の増加が進み、火災等の災害リスクの増大や住環境の悪化が懸念される。
- ・大型スーパーの撤退や商業機能の衰退により、移動手段を持たない高齢者を中心に日常の買い物環境が悪化し、生活利便性の確保に課題が生じている。
- ・商店街の空き店舗の増加や駐車場不足、幹線道路整備を活かした沿線活用方針の不在により、地区拠点における商業機能の再生が進んでいない。
- ・高齢化の進展に対して高齢者施設の整備や見守り、移動支援体制が不足しており、単身高齢者を含めた生活基盤の維持に課題が生じている。
- ・公民館の老朽化が進行する中で、建替えや更新に関する方針が明確でないため、施設更新の判断や地域拠点機能の維持が停滞している。

#### 中山間地域

- ・都市構造の考え方が実態と乖離し山間部から市街地への一方向の移動を前提とした構造となっており、地域間の往来や生活実態が反映されていない。
- ・買い物、医療、交通などの生活機能が各集落で十分に確保されておらず、生活利便性の低下と定住継続の困難化が進んでいる。
- ・集落が点在している地理的条件の中で拠点的功能の配置が不十分であり、小さな拠点の形成が進まず地域の持続性に課題が生じている。
- ・公民館等の地域拠点の老朽化や維持管理負担の増大により拠点機能が低下し、コミュニティの維持が困難となり集落の衰退が進行している。
- ・廃校施設の利活用方針や支援体制の具体化が不十分であり、交流拠点やテレワーク拠点等としての活用が進まず、若者の呼び込みや地域活性化につながっていない。
- ・学校の閉校等により子育て環境の魅力が低下し、子育て世代の移住や定住が進まず、地域の人口維持が困難となっている。
- ・高齢化の進行の中で買い物手段が移動販売に依存しているが持続性が不十分であり、日常の買い物環境の維持に課題が生じている。

	市街地地域	市街地周辺地域	中山間地域
交通体系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幹線道路の渋滞回避に伴う通過交通の住宅地への流入や進入防止策の未整備により、子どもや高齢者の安全性や住環境の確保に課題が生じている。</li> <li>・狭隘道路の未改良により救急車や消防車の通行が困難な区間が残り、緊急時の対応や生活の安全性の確保に課題が生じている。</li> <li>・都市計画道路や橋梁の未整備や接続不良、整備の遅延により、渋滞の発生や地域内アクセスのボトルネックが解消されていない。</li> <li>・路線バスの廃止や減便、将来的な運休、高齢者や免許返納者の移動手段の確保が懸念となっている。</li> <li>・駅前マンションの増加に伴う人口増加が見込まれる中で、駅前や善光寺周辺における駐車場不足や渋滞の発生により、来訪者と居住者双方の安全性と快適性の確保に懸念がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幹線道路の慢性的な渋滞がある。</li> <li>・路線バスの廃止や減便、タクシー台数の減少、デマンド交通の運行条件や地形適合の不足により、高齢者や免許返納者の通院や買い物などの移動手段の確保が困難となっている。</li> <li>・幹線道路の渋滞回避による通過交通の生活道路への流入により、通学時間帯の混雑や狭隘道路での危険性が増大し、地域の安全性が低下している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トンネル等の広域道路整備の具体化が進んでいないことにより、市街地と中山間地域を結ぶ幹線交通のボトルネックが解消されていない。</li> <li>・山間部の生活道路における狭隘区間や急カーブ、歩道未整備、カーブミラー不足などにより、視距の確保や自家用車・緊急車両の通行、歩行者の安全確保に課題が生じている。</li> <li>・路線バスの減便や土日運休、デマンド交通の利便性不足、鉄道駅へのアクセス不良、移動支援の不足により、高齢者の日常的な移動手段の確保が困難となっている。</li> <li>・道路等の維持管理や修繕の遅れにより、災害時の道路寸断リスクや交通事故リスクが高い状態が継続している。</li> </ul>
自然環境保全・緑	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水路や緑地広場の一体的な空間整備が未実施であり、水とみどりのネットワーク形成が進んでいない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耕作放棄地の増加や有害鳥獣対策の遅れにより、農地管理と景観形成の両立が進まず、里地里山の保全機能が低下している。</li> <li>・レクリエーション施設や自然資源の活用方針が不明確であることにより、自然環境の保全と利活用の方向性や整備の優先順位が定まっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家の増加に伴う獣害の発生や環境悪化により、里山の生活環境や景観の維持に課題が生じている。</li> <li>・森林や農地の保全と利活用の方針が整理されておらず、地権者合意の形成も進まない中で、地域景観の維持や重点的な整備の方向性が定まっていない。</li> </ul>
景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画道路の計画において神社等への配慮が不足しており、歴史資産の保全と都市基盤整備の両立に課題が生じている</li> <li>・北国街道の街並みの位置付けや西山街道の復活、善光寺と長野駅を結ぶ歴史的な文脈などが計画に十分反映されておらず、歴史性に基づく景観形成が進んでいない。</li> <li>・戸隠や鬼無里の歴史的資源の情報発信や周知が不足しており、市街地との回遊性や広域観光動線への接続が弱く、文化資産の活用が限定的となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街道沿いや公園、天然記念物等の維持管理が不十分で、千曲川沿いの緑地空間の再整備も停滞していることから、景観の質や利活用の水準が低下している。</li> <li>・川中島古戦場の再整備や大規模イベント時の動線計画が不十分で、歴史資源を活かした回遊性や受入環境の質の向上に課題が生じている。</li> <li>・泉水や水路の保存整備に関する調査不足や都市公園の魅力向上の遅れにより、水文化の継承や憩いの場としての機能が十分に発揮されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光資源へのアクセス道路の整備遅れや眺望地点の不足により、来訪促進や景観資源の活用が進んでいない。</li> <li>・大規模太陽光発電施設の立地に関する方針が不在であり、森林や農地の保全に対する影響の抑制が十分に図られていない。</li> <li>・歴史資源や地域資源の活用に対する財源確保が不十分であり、地域主体による保全や文化的活用の継続に課題が生じている。</li> </ul>

	市街地地域	市街地周辺地域	中山間地域
防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中豪雨による内水氾濫が発生する中で、排水能力や雨水調整機能の強化・運用が不十分であり、都市型水害への対応に課題が生じている。</li> <li>・人口集積に対して避難所の収容力や物資備蓄が不足しており、災害時の受入体制の確保が十分でない。</li> <li>・防災拠点の機能強化や拠点間連携が不十分であり、高密度市街地における応急対応体制に課題が生じている。</li> <li>・木造住宅の密集や狭隘道路の未改良により、延焼拡大や救助遅延のリスクが高い。</li> <li>・公園の維持管理不足により、一時避難場所としての機能や安全性の確保が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川整備の遅れや広域的な浸水想定に対し対策が不十分であり、浸水被害や内水氾濫のリスクが解消されていない。</li> <li>・避難所の配置や機能が不足しており、分散した地域構造の中で避難体制の確保に課題が生じている。</li> <li>・多言語対応や防災訓練の不足により、多様な住民・来訪者への避難誘導が十分に機能していない。</li> <li>・防犯灯不足や水路周辺の安全対策の遅れにより、広域的生活空間の安全確保が不十分である。</li> <li>・野生鳥獣対策が不十分であり、地域の安全性や農業への影響が生じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山間部において防災拠点の配置や連携体制が不十分であり、各支所を活用した分散型の防災拠点の整備と防災システムによる連携強化が求められている。</li> </ul>
経済活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・善光寺へのインバウンド来訪者が増加するなかで、消費の受け皿や受入体制の整備が不十分であり、観光消費が十分に取込まれていない状況をふまえ、実態把握と具体的な対策の検討が求められる。</li> <li>・もんぜんぷら座跡地については、善光寺来訪者を新田町方面へ誘導する拠点として、回遊性の向上とにぎわい創出に資する魅力的な施設整備が求められる。</li> <li>・PPP・PFI等の導入を視野に入れ、民間連携の仕組みについて具体的にビジュアル化を図ることが望まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業従事者の高齢化や後継者不足により耕作放棄地が増加するなかで、担い手確保や農地集約に向けた制度運用が不十分であり、農業生産基盤の維持に課題が生じている。</li> <li>・観光施設や地域資源の活用において多言語対応や受入環境の整備、情報発信が不十分であり、インバウンドを含む観光消費の取り込みが進んでいない。</li> <li>・広域的な周遊ネットワークの整備や移動手段の充実が不十分であり、観光回遊性の向上や消費の面的拡大が図られていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少や担い手不足により労働力の確保が困難であり、企業誘致や農業分野への参入が定着せず、地域経済の活性化につながっていない。</li> <li>・遊休農地の増加に対して新規就農者支援や農地活用の取組が不十分であり、農地の再生と担い手確保が進んでいない。</li> <li>・畜産における処理・加工拠点の不足により生産から付加価値化までの体制が整っておらず、地域資源を活かした産業化が進んでいない。</li> <li>・観光資源ごとの方針や方向性が明確でなく、地域間の連携や回遊が弱い中で観光消費の拡大が図られていない。</li> <li>・地域住民の日常利用に資する商業・交流機能が不足しており、定住促進や日常的な消費の創出につながる経済基盤が弱い。</li> </ul>